

KSKQ

No.48

障害者事業団だより

一般財団法人箕面市障害者事業団

設立25周年記念誌



設立25周年を迎えて、ささやかながら職員で「祝う会」をおこなった時の一コマです。これまでの箕面市障害者事業団の歴史を振り返り、この先の取り組みに繋げていく機会としました。

25周年を迎えて	理事長 岡 猛博	2P
お祝いのご挨拶	倉田 哲郎 箕面市長	3P
	牧野 芳治 箕面市議会議長	4P
箕面市障害者事業団の25年間を振り返って		5P
2つのデータからの障害者事業団の就労支援のこれまでとこれからを考える		10P
箕面市障害者事業団での共に働く支援の取組み		12P
職員の声		13P
重度障害者市民の Viewpoint32		14P
啓発講座の歩み (H22~H26)		15P
機関誌総目次 (No.39~No.47)		16P
理事・監事・評議員任期一覧表		20P
編集後記		30P

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行



25周年を迎えて

一般財団法人箕面市障害者事業団
理事長 岡 猛 博

一般財団法人箕面市障害者事業団の設立25周年にあたり、本事業団を代表して一言ご挨拶申し上げます。

平成2年の設立から今日まで、箕面市議会、箕面市、市内関係団体や賛助会員の皆さまから、多大なるご支援とご協力をいただきましたこと、衷心より厚く御礼申し上げます。また、設立認可以来、種々ご助言を頂いている大阪府を始めとする関係機関・団体の皆さまに対しましても、心より感謝を申し上げます。

箕面市障害者事業団では、「働くことを軸にしたノーマライゼーションの実現」を理念といたしまして、雇用している障害者のみならず、実習や啓発、就労支援を通じて、多くの障害者、関係者、社会に公益を提供してまいりました。また、ここで生まれる様々な工夫やノウハウを、一般企業での、より就労が困難な障害者の雇用に役立てて頂くことにより、社会での障害者雇用の広がりを図ってまいりました。

一般企業等への直接的な障害者の就労支援といたしましては、平成8年度に全国6番目に開所した箕面市障害者雇用支援センターを、平成21年度からは就労移行支援事業といたし、また、平成20年度には併せて、豊能北障害者就業・生活支援センターを開所いたし、ジョブコーチ支援も含めた取り組みをおこなってまいりました。

厚生労働省が平成26年11月に発表したデータによりますと、一般企業における障害者雇用率は5年連続で上昇し実雇用率は1.82%となっております。これは、現在の法定雇用率2.0%は達成していないものの、平成24年度までの法定雇用率1.8%を上回る結果となっております。しかしながら、法定雇用率達成企業割合については44.7%となっており、平成24年度当時の達成企業割合46.8%には、至っていない状況であります。

今後も、より多様な障害者への就労支援が求められるものと思われ、箕面市障害者事業団の役割は、ますます重要になってくるものと考えております。

とりわけ、箕面市、箕面市障害者事業団、箕面市内障害者事業所が先駆的に取り組んでいる「社会的雇用」につきましては、これを国制度とするべく箕面市から国への提案を行ってこられました。今後も引き続き箕面市と連携し、福祉行政と労働行政の谷間を埋める画期的な制度として周知を広げていくとともに、実践に取り組んでまいり所存であります。

今後とも、箕面市障害者事業団の事業運営に、引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。



お祝いのご挨拶

箕面市長 倉田 哲郎

一般財団法人箕面市障害者事業団が設立25周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴事業団におかれましては、「働く」ことを核としてノーマライゼーション社会を推進するため、長年にわたり、箕面市で暮らす障害者市民の職種開拓、職域拡大を進められるとともに、一般企業への就労を数多く実現され、障害者市民の雇用促進に尽力してこられましたことに、心からの敬意を表します。これも、岡理事長様並びに尾池前理事長様をはじめ、貴事業団役職員の皆さまの熱意と努力の賜物と存じます。

さて、本市では、貴事業団との連携のもと、「働きたい思い」を持った障害者市民が、重度の障害があっても自らの能力・適性に合わせて働くことができ、かつ自立して生活するに足る賃金を受け取ることができるよう、一般就労と福祉的就労の中間に位置する第三の就労の場として、本市独自の「社会的雇用」制度を推進してきました。

本市では、この先進的な制度を国の制度とすべきと考え、貴事業団のご協力をいただき、平成22年度から23年度にかけて、私自身も国の「障がい者制度改革推進会議総合福祉部会」の構成員として参加し、国の制度化について提案するとともに、市としても、国等に対して複数回にわたり要望書を提出してきました。この実現のためには、今後も引き続き、貴事業団との強い連携が不可欠であると考えております。

国においては、障害者市民の就労支援と経済的自立を推進するため、障害者優先調達推進法が平成25年度に施行されるなど、さまざまな取組みが進められているところです。

来る平成28年4月には、障害者差別解消法が施行されるとともに、障害者雇用促進法も改正され、雇用分野での障害を理由とする差別的取扱いの禁止と、職場での合理的配慮提供が義務化されます。

これにより、障害者市民の一般就労はさらに進むものと思われませんが、その過程においては、お一人おひとりにあった職種・職場の選択や職場での適切な支援・助言など、貴事業団の果たされる役割はますます大きくなるものと考えます。引き続き、本市障害者市民施策の推進に、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、貴事業団の今後ますますのご発展と、関係者の皆さま方のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。



お祝いのご挨拶

箕面市議会議長 牧野 芳治

一般財団法人箕面市障害者事業団が設立 25 周年を迎えられるにあたり、市議会を代表いたしまして心からお祝いを申し上げます。

貴事業団におかれましては、永年にわたり歴代の役員並びに職員の皆様方の並々ならぬご熱意とご努力により、障害者市民の福祉向上への寄与、とりわけ働く場の創出と就労継続の支援を軸に積極的に事業展開され、着実にその成果を上げて来られました。

ひとりでも多くの障害者雇用につなげるための職種開拓・職域拡大や働く現場での実習、就職後のフォローをはじめ、障害者問題について広く社会に啓発することをめざした広報活動など、たゆまぬ経営努力の上に、広範で難度の高い業務に全力で取り組んでいただいておりますことに深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

障害者総合支援法により、障害のある方が地域社会において日常生活や社会生活を営むために必要な支援を受ける権利が保障され、平成 28 年 4 月に施行される障害者差別解消法では、障害者の社会参加を制約している障壁を取り除くための合理的な配慮が求められるとともに、障害を理由とした不当な差別的取扱いが禁止されます。しかし、障害者市民が望みどおりに就労し、経済面においても自立していくことはまだまだ厳しく、さらなる取り組みが必要であると存じます。

市議会といたしましても、「誰もがいきいきと暮らせるまちづくり」の実現に向け努めて参りますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴事業団の今後益々のご活躍とご発展、並びに皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

箕面市障害者事業団の25年を振り返って

初代プロパー職員 栗原 久 (常務理事 兼 事務局長)

はじめに～原稿を書くに当たって

去る平成27年(2015年)6月1日に、事業団は創立25周年を迎えた。この四半世紀を振り返る原稿を、あえて、初代プロパーの視点で書かせて頂くことを、お許し頂きたい。私は、平成元年度(1989年度)に、事業団の前身であるモデル事業推進協会に雇用され、喫茶るうぷメイプルホール店で知的障害のあるスタッフと共に働き出した。

その後、平成2年度(1990年度)、事業団設立と同時に採用され総務課に配属、平成8年度(1996年度)から平成15年度(2003年度)までは、全国6番目にスタートした箕面市障害者雇用支援センターで企業就労支援に携わった。そして2年間の箕面市役所への研修派遣(市長公室経営改革担当)を経て、平成18年度(2006年度)から現職で仕事をしている(常務理事は平成21年度(2009年度)から拝命)。

原稿を書くに当たり、この間の主な出来事等を、決算書や私の記憶をもとに、年表にしてみた。年表も見ながら、改めて、25年をトピックス的に回顧することとしたい。

年度	周年	理事長	副理事長	常務理事	事務局長	事務所	主な出来事			
H 2(1990)	0	藤井	尾池	芝	鈴木	萱野	財団法人設立、喫茶・プール売店(モデル事業から引き継ぎ)、公園花壇管理、職場実習助成事業、市内事業所アンケート			
H 3(1991)	1	尾池	高市	兵庫	太田	瀬川	障害者問題連続講座(H4以降は市委託事業に)、市内事業所アンケート報告書			
H 4(1992)	2						あかつき	リサイクルセンター(カン・ビン手選別・清掃)、障害者雇用制度報告書(中間)、啓発ビデオ①、国連「障害者の10年」中間年イベント		
H 5(1993)	3						つき	障害者雇用制度報告書(最終)、啓発ビデオ②、リサイクルセンターにて医療系廃棄物問題		
H 6(1994)	4						島田	職場実習事業(市委託)、障害者雇用支援センターへ名乗り挙げ		
H 7(1995)	5						仲野	5周年記念イベント・記念誌、障害者雇用支援センター指定へ向けた国・府協議		
H 8(1996)	6						熊井	西小路	障害者雇用支援センター設置、ささゆり園運営、ライフプラザ関係(植栽緑化管理、フラワーショップ、喫茶)	
H 9(1997)	7						武藤	谷田	ささ	労働省研究会に委員として参加
H10(1998)	8									たのむわ買うてえ屋(コープ)
H11(1999)	9									厚労省検討委員会に委員として参加

H12(2000)	10			小	ゆ	10周年記念イベント・記念誌
H13(2001)	11		河井	橋	り	ふれあい就労支援センター着工
H14(2002)	12		吉田直		園	ふれあい就労支援センター竣工、ジョブコーチ支援事業、「パオみのお」に関する施設コンフリクトが起きる
H15(2003)	13	奥田	吉田照	吉田照	稲・ふれあ	事務所移転（日本障害者雇用促進協会助成金）、雇用支援センター地域拡大（池田市・豊能町）
H16(2004)	14					箕面市への研修派遣（経営改革担当、～H17）
H17(2005)	15					15周年記念誌、「障害者事業団の今後のあり方」検討
H18(2006)	16			栗原	い	「社会的雇用の今後のあり方」検討、HPに支援事例掲載開始
H19(2007)	17				就	公益法人制度改革への対応検討開始
H20(2008)	18				支	豊能北障害者就業・生活支援センター併設
H21(2009)	19			栗原	援	障害者雇用支援センターを就労移行支援事業に移行、アートショップ（旧フラワーショップ）、緊急雇用（作業所等サポートチーム、～H22）
H22(2010)	20				セ	20周年記念イベント・記念誌、ゆずプロジェクト参画、緊急雇用（箕面中央朝市、～H23）、障がい者制度改革推進会議 総合福祉部会に市長同行（～H23）
H23(2011)	21		岡		ン	一般財団法人に移行準備 機関誌特別号（論文集）発行開始
H24(2012)	22				タ	一般財団法人に移行
H25(2013)	23	岡	工藤		ー	尾池前理事長「感謝の集い」
H26(2014)	24					箕面市への研修派遣（健康福祉部障害福祉課）
H27(2015)	25					25周年記念誌

* 理事長等（敬称略）は、各年度末の時点の方を記載していますが、平成27年度（2015年度）は6月30日現在です。

船出は順風満帆ではなかった

今でも思い出す光景がある。平成2年（1990年）5月30日の夜だったと思う。設立予定である6月1日の前々日になって、ようやく大阪府知事の認可がおりた日であった。

当時は、障害者雇用については国の一元的な政策であり、市町村が乗り出すことなど、まずなかった。また、箕面市サイド（行政・団体）の「障害者の働く場を創る」という想いと、「不特定多数への公益を提供」という認可庁側の原則との間での、「難産」であった。しかし、この「難産」にも後押しされて、後に、障害者の直接雇用に残らず、施設・在宅障害者の実習受け入れや、全国に先駆けての企業就労支援に積極的に取り組むことにもなった。すなわち、もともとの構想としてあった「障害者の働く場づくり」は重要だが、それだけでは財団法人としての役割を果たせないと、少なくとも事務局の一人である私は、強く実感していたからである。

さて、「思い出す光景」の話だが、私を含む何人かのプロパー職員が呼ばれて、ある箕面市職員から檄を飛ばされていた。「君たち(健常者スタッフ)を雇用するのは、君たちの働き口のためではない。世の中を変える事業団を創っていってもらうためだ。重度障害者の雇用問題はまだまだ時間がかかる。だからこそ事業団を創った」、確かそんな内容であったと思う。戦慄が走ったのを記憶している。「世の中を変える事業団」になれたかどうかは、今後の評価に委ねたいが、少なくとも出発時、順風満帆な船出ではなかったこと、しかしそれを上回る強烈なエネルギーが渦巻いていたことは、事実である。

「働く場づくり」が直面した社会との確執

一般企業への就労が困難とされた、職業的に重度な障害者を雇用することが、事業団に課せられた使命の一つであった。現在、喫茶店、公園花壇管理、リサイクルセンター運営事業などで、20名の障害者スタッフが職員として勤務している。事業団では発足当初から、訓練という考え方ではなく、物理的工夫や人的支援を行って、障害者スタッフが働きやすい環境を整備していくことを重要視していた。今般、障害者差別解消法で謳われた「合理的配慮」の先駆的取り組みと言っても良いだろう。

しかし、実際に事業が動き出すと、思いも寄らぬ問題が起きてくる。年表の平成5年度(1993年度)欄にある「リサイクルセンターにて医療系廃棄物問題」も、その一つだ。市内から収集されたカン・ビンを鉄とアルミに、ビンを色別に手で選別する仕事で、同センター建設段階から、事業団もバリアフリー化の提案等を行ってきた。

ところが、当時はまだまだ「ゴミの分別」に対する社会全体の意識に課題があり、大量の注射針や血液の付着した医療用具等が、カン・ビンに混ざって、ベルトコンベヤー上を流れてきたのである。健常者スタッフに注射針が刺さってケガをしたことを契機に、現場担当職員が機械を停めるに至った。「このような状況では、障害者、健常者問わず、働く者の安全が守れない」との、至極当然なメッセージを出して(*)。

結局、当時の事務局長や市役所の懸命な働きもあり、また医療機関の理解もあり、その後、医療系廃棄物は激減することになる。25周年を振り返るに当たり、あえてこのことに触れたのは、「障害者の働く場づくり」が、どこか山奥の閉ざされた空間でなされるのではなく、地域社会の真っ只中で営まれるからこそ、こうした確執とも遭遇するということを言いたかったからである。そして、それらの一つひとつ乗り越えていかねばならないとも思う。

(*) その後、分別の徹底に向けた取り組みを行うことを市役所と協議し、医療系廃棄物の混入したカン・ビン等は、コンベヤーの速度を落とし、安全確保の上、処理した。

企業就労支援の創生期の話

事業団は発足時から、職場実習助成事業というものをしていて、企業が実習生を受け入れた場合、協力金を支給する仕組みを作っていた。平成6年度(1994年度)からは、市の委託事業となり、実習生に同行するスタッフ(今のジョブコーチ)人件費も予算化された。そうした実績をもとに、市町村レベルで取り組めることになった障害者雇用支援センター事業に、箕面市が名乗りを挙げた。

しかし、これまたすぐにOKが出たわけではなかった。「人口10万人規模でできるのか」といった疑問も、国や大阪府との協議では出されたが、最終的に、大阪府知事の指定を受けることができ、発足する。開所式の朝だったが、発足に尽力頂いた大阪府労働部の方から電話が入った。「栗原さん、これからですよ、大変なのは。みんなが成果を見てますよ。頑張ってください」と。ありがたいのと、

緊張したのとて、何と答えたのか覚えていないが、事業団設立時に檄を飛ばされた箕面市職員といい、節目節目でカツを入れて下さる方がいたからこそ、ここまで来ることができたような気がする。

また、同センターが発足した平成8年度(1996年度)の終わり頃か、労働省の方が来られて、「高齢・障害者対策部長のもとに、地域障害者雇用支援ネットワークに関する研究会を作るので、委員になるよう」要請された。「雲の上」と思っていた中央省庁の会議に、ガチガチに固まって参加したが、障害者雇用対策課長であった村木厚子氏(現・厚生労働事務次官)や、調査官であった依田晶男氏の柔軟な会議運営に緊張も解け、箕面市での実践を目一杯話したことが懐かしい。

その後、いわゆる箱型の障害者雇用支援センターから、福祉施設に併設するあっせん型雇用支援センターが主流になり、それが現在の障害者就業・生活支援センターへとつながっていることは周知の事実である。一方で、旧厚生省サイドの授産施設見直し論議の流れの中で、就労継続支援A型(雇用型)、B型(非雇用型)及び就労移行支援事業も生まれるが、今また、それぞれの機能の役割分担が活発に議論されることとなっている。思えば、箕面市障害者雇用支援センターが発足してから来年で20年であり、制度を利用する方たちの全国的な拡がりに比して、スタッフ数の増員は全く追いつかず、このままでは、どこの現場も疲弊してしまうのではないかと、強い懸念を持っている。

社会的雇用の議論は何を生み出したか

現在進行形でもあり、書きにくいだが、障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会(平成22~23年度(2010~2011年度))に端を発した箕面市発の社会的雇用の提案は、我が国における保護雇用や中間的就労の議論に一石を投じることはできた。よく使うフレーズで言えば、「ハードルの高い一般就労と、訓練主体で工賃の低い福祉的就労の間に、第三の道を」という発想である。しかも、箕面市では、昭和61年(1986年)から自治体独自の財源で、一定の要件を満たす事業所に対して、障害者への賃金補填を含む補助を実施しており、机上の空論ではない提言を発信してきたと考えている。

しかし、議論はどれ程深まったのかというと、心もとないのも実際である。その原因は幾つか考えられるが、まず、いわゆる中間的就労の概念整理が出来ていないまま(各自のイメージが噛み合わないまま)、いきなり賛成か反対かの意見を表明しようとしていることが挙げられる。下表は、この3月まで在籍していた大学院(日本福祉大)の修士論文中の表の一部だが、各下位概念について、「労働の担い手(障害者・健常者の位置づけ)」「担い手の労働を支える論理・法的根拠」「労働の供給の場」「労働の担い手が受ける金銭的報酬」「公的補助の有無(対象)」「保護雇用との関係」「社会的企業との関係」を分析した。まだまだ不十分ではあるが、より建設的な議論の一助となれば幸甚である。

障害者就労															
下位概念	一般就労			中間的就労(第三の道・新たな選択肢)						福祉的就労(障害者総合支援法のサービス)					
	企業労働	企業労働の一形態		制度化されているもの			制度化されていないもの								
		特例子会社	重度障害者多数雇用事業所	社会的雇用	障がい者協働事業所	社会的事業所		社会支援雇用				生活困窮者関連			
				箕面市 1) 2) 3)	札幌市 4)	三重県 5)	滋賀県 6)	共同連 7) 8)	セルフ協 9) 10)	きょうされん 11)	国 12)	就労継続支援A型事業 雇用関係あり(ほとんど)	雇用関係なし	就労継続支援B型事業	就労移行支援事業

また、賃金補填というと、日本では何故かマイナスイメージが付きまとう。いわく「さぼるのではないか」等であるが、これについては、社会的雇用事業所の実践をつぶさに見ることで、そうした誤った偏見を払拭して欲しいとも思う。

一方で、この間、箕面市が提案してきたメッセージの中心はコスト削減論であった。つまり社会的雇用を他の福祉制度と比較すれば、決して高くないという論調であり、私もそのように考える。今後は、これに加え、社会的雇用で実践されている、障害者と健常者の対等な関係性について、その重要性を強調していく必要があると考える。特に障害者虐待の根本的な解決には、障害者に対する対等な人間観が関係していると思うからである。

だが、その上で、と言うべきか、私は、最終的には一般就労に強く影響を与えるような社会的雇用のあり方、また一般就労に転職する人も積極的に生み出していく（また転職後のフォローも行っていく）社会的雇用のあり方が求められているとも考える。そのことが実現できたときに、社会的雇用の実践が、中間的就労を巡る議論、ひいては障害者雇用全体に対して、より一層説得力を持つと確信している。

おわりに～雇用の質を提起できる事業団に

また、このことは事業団自らにも課せられた課題でもある。私は、たまたま箕面市役所に出向に行っていたので、検討の場には関わっていないが、平成16～17年度(2004～2005年度)、事業団の今後のあり方を巡って、障害者団体も交え、激しい議論が繰り広げられた。

発足以来、障害のあるスタッフを、競争試験ではなく選考採用してきた事業団。例えば、リサイクルセンター業務の場合は、希望者に実習に取り組んでもらい、採用の参考資料としたが、あえて上手く作業ができる人ではないメンバーをこそ、採用候補としていった。一般就労が可能と思われる人は、まず一般就労にチャレンジして欲しいとのポリシーからである。

しかし、定年制雇用でスタートした事業団は、20人規模から拡大できずにおり、このことが障害者団体からの批判を受けることとなった。確かに事業を上げ収益を上げ、事業団づくりの頃、巷間言われていた100人規模の事業団になれば良いかとも考えるが、結論としては、以後雇用する場合は有期限とし、一般就労をはじめ次のステップを一緒にめざすというものであった。

現在は、そうした有期限の障害者スタッフは2名だが、10年後、20年後には事業団の様相も大きく変わってくる。就労継続支援A型でもなく、就労移行支援事業でもない事業団が、その頃、どのような仕組みを構築・選択するかは、今の私には予測はできない。しかし、冒頭述べた「世の中を変える事業団」という熱い想いと、着実な実務力を養って、後輩メンバーが、新たな道を切り拓いていくことを願って止まない。

そのためにも、障害者スタッフとの真摯な向き合いが不可欠である。定年制メンバーについて言えば、就職時20、30代だった彼ら・彼女らも、中高年世代であり、高齢化がもたらす作業や職業生活上の課題への解決策は、日に日に重要さを増している。そして、この課題はどの企業でも直面するものだからこそ、事業団が率先して取り組む必要がある。

25年間を振り返ってみて、やはり最後は原点に帰ってしまった。発足当時、遅々として進まない障害者雇用に対して箕面市や障害者団体が掲げた「のろし」。今は量的には障害者雇用は格段に前進した。これからは、民間企業のモデルとなる雇用の質をこそ提案していく段階だと考える。そのことを最後に記し、結語としたい。(6月30日退職の日に)

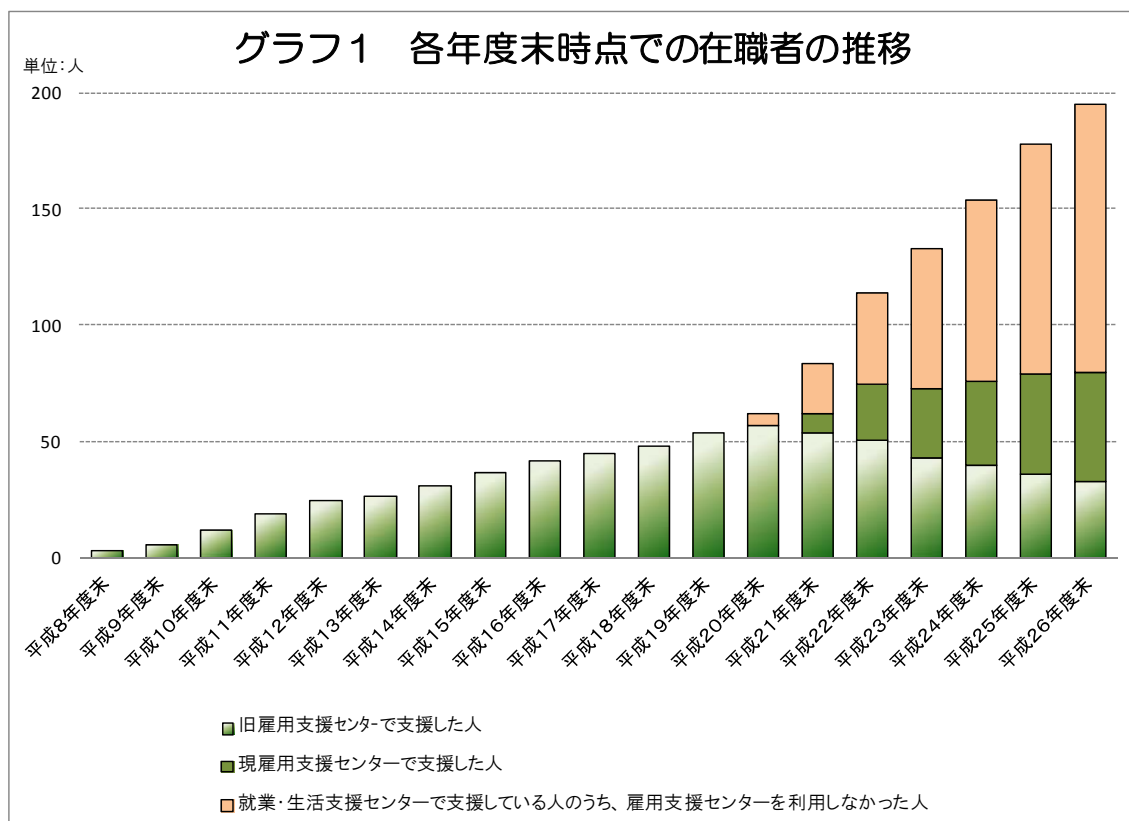
2つのデータからの障害者事業団の就労支援の

これまでとこれからを考える

平成8年(1996年)7月、障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく「箕面市障害者雇用支援センター」の業務を開始しました。相談から就職後の定着支援までの一貫して支援を自治体レベルの地域で担う取り組みは、箕面市内だけでなく各地から注目いただきながらのスタートでした。

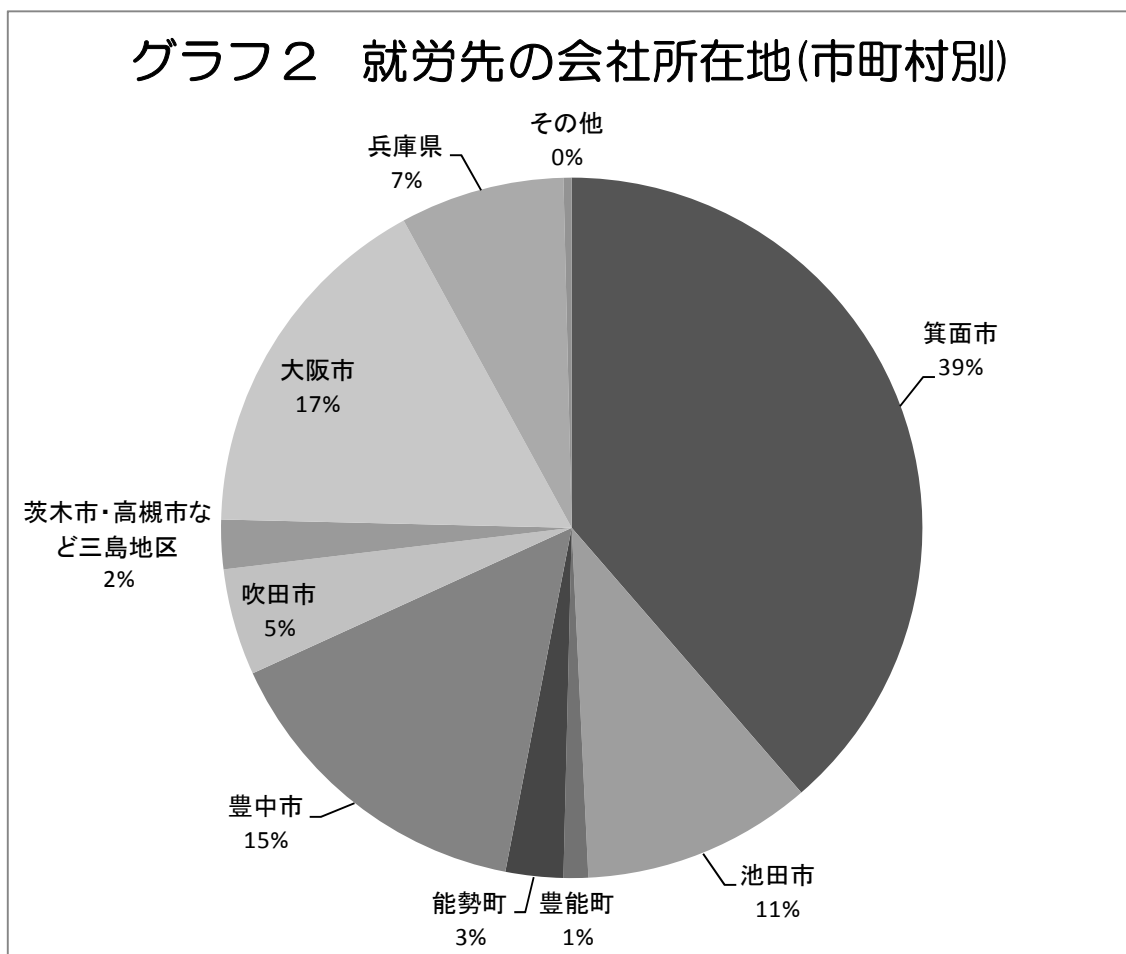
その後、障害者就労支援の制度が大きく拡充されたのは周知のとおりです。障害者事業団が行う企業就労支援も、今では障害者総合支援法の就労移行支援、障害者就業・生活支援センター、訪問型職場適応援助者といった国の制度を可能な限り活用した複合的な支援を展開しています。

『グラフ1』は、障害者事業団が企業での就労支援をして、各年度末で企業に在職中の状況にある人数の推移をまとめたものです。国制度の変更により障害者雇用支援センターの定員と受入れ地域を拡大するとともに、広く相談に応じる障害者就業・生活支援センターを開始した平成21年度頃から、在職者の増加がより顕著になっています。これまでの取り組みを経て約200名の在籍者の方がおられるのも、当事者の皆さんの頑張りや障害者雇用に取り組む事業主の皆さんの理解があったからこそだと感じています。



在職者の中には、10年以上ずっと同じ会社で働いている人もいれば、一度就職した会社を退職した後、別の会社で働いておられる方もいるなど様々です。これから更に多くの方の就労が実現できるように、箕面市障害者雇用支援センター、豊能北障害者就業・生活支援センターを中心に障害者事業団での支援体制を深めていくことが今後の重要なテーマです。地域の障害者を支援する福祉施設や相談窓口、教育機関とも連携して、一人ひとりのニーズに向き合った支援を引き続き取り組んでまいりたいと思います。

次に、これまでに支援した方の就労先所在地の市町村別割合をグラフにしたのが『グラフ2』です。



電車・バスを乗り継ぐ等で遠方まで通勤している人がたくさんおられることが、改めて近隣の市町で働いている人が多いことでわかります。障害者事業団が就労支援を始めた当初と比べて、バス路線の拡充など交通インフラは随分と整ったことで遠方の会社までの通勤が容易になったのだと思われます。その点では、今後の交通機関の利便性が更に高まることで、通勤可能な会社の選択肢が広がることも期待できそうです。

障害者事業団の設立から25年、障害者事業団が就労支援の取り組みを始めてからは、来年で20年になります。前例がないところから手探りで支援のあり方を創ってきた諸先輩方の熱い熱いスピリッツ、全国で6番目に障害者雇用支援センターの指定を受けて取り組んできたという先駆者としてのプライドは、いつまでも語り継ぎつつも、障害当事者と雇用事業主の多様な支援ニーズに向き合い、地域から求められる期待に応えていけるよう、スタッフ一同、さらに努力を重ねていくことを改めて決意いたします。

箕面市障害者事業団での共に働く支援の取り組み

昭和60年(1985年)11月、市内障害者団体と行政が「共通のテーブル」を囲んで、「障害者の働く場づくり懇話会」が発足しました。

「どうして障害者は、学校を卒業しても働く場がほとんど無いんだろう」、そんな疑問から始まった働く場づくりの取り組みは、市民と障害者団体と市行政が力を合わせて、5年の歳月を費やしました。そして、平成2年(1990年)6月1日、公益法人として箕面市障害者事業団は誕生しました。

箕面市障害者事業団の事業の現場では、障害者市民が職員として、いろいろな現場で働いています。その中でモットーとしていることは、「障害に合わせた工夫をして職種を開拓する」、「個々人の能力・能率差による競争ではなく相互支援・総合力で仕事をする」、「市民とふれ合う場で働く」です。

障害者事業団の職員として障害のある人が働くということは、一般企業等で働く環境を整えるのはまだ難しい障害のある人が、どのような環境や支援と工夫があれば働けるのかを実践するということです。その上で、労働力を提供する働きをすることは勿論ですが、それに加えて、その実践を多くの人に知ってもらうことによって、他の障害のある人がひとりでも多く活躍できる社会をつくる働きも、とても大切な役割となっています。

障害者事業団に就職するまでは福祉サービスの受け手であった人が、仕事を通じてサービスの提供者側になり市民に喜んでいただくことができるようになると、見ちがえるように意欲に溢れてくる人もおられました。これは、仕事だけに限られることなく、人から必要とされたり、人を喜ばせたりすることにより、生きる幸せを感じるということが、働くということを通じて表れたものだと思います。

また、事業団の事業現場に、「働く体験」として実習に来られた障害のある人の数は、この25年間で約1,000人を超えました。実際の職場で「働く体験」をしてもらうことは、障害のある人にとっては、例えばアルバイトを経験する機会がほとんどない中では貴重なものとなっています。「働く体験」を通して、仕事をする楽しさや、人から感謝されることへの喜び、又、大変さも実感してもらい、将来の目標づくりを考えるきっかけの場としてもらっています。そして、実習生の方にとっては、職場にいる障害のある職員は、良き目標となると思います。

そして国は現在、平成28年4月の施行に向けて障害者雇用促進法に基づく、合理的配慮指針を示しています。今回の指針に盛り込まれている、個々の障害者が労働での力を発揮できるための配慮等は、これまで私たちが実践してきたことそのものです。これからは、その合理的配慮の実践例としても、支援事例を更に広く啓発していきたいと思っています。

また、私たちが、障害のある人が安心して長く働き続けることができるように、加齢や生活環境の変化等への対応を含めて職場として取り組むことで、25年間にわたり日々向き合ってきた私たちだからこそ出来る実践を積み上げていきたいと思っています。そして、この取り組みが、これからの障害者雇用を、更に広げ、深めることにつながることを、強く願っています。

職員の声

～この5年間で勤続20年を迎えた職員を紹介します～



田中 小百合さん
(瀬川緑化部門)
平成3年6月採用
勤続24年目

『これからも長くがんばりたい。』



高村 俊治さん
(リサイクル部門)
平成4年7月採用
勤続23年目

『カン・ビン選別が楽しい。もっとやりたい。』



正木 充子さん
(ビルメンテナンス)
平成5年1月採用
勤続22年目

『これからもビルメン(清掃)がんばります。』



松内 秋弘さん
(リサイクル部門)
平成5年1月採用
勤続22年目

『しんどいけどがんばった。』



徳山 良生さん
(リサイクル部門)
平成5年1月採用
勤続22年目

『たのしかった。』



柴田 益孝さん
(リサイクル部門)
平成5年1月採用
勤続22年目

『大変でした。でも、これからももっとがんばる。』



大谷 智宣さん
(リサイクル部門)
平成5年1月採用
勤続22年目

『これからもがんばる。』



三阪 太洋さん
(ライブラ緑化部門)
平成6年8月採用
勤続21年目

『定年までがんばる。』

Viewpoint No 32

読者の皆さん、こんにちは。今年で事業団は、発足して25年になりました。そして私も、事業団で働いて17年が経ち18年目を迎えています。私の現在の職場のアートショップ・グリーンるうぶは、6年前にオープンしました。私の介助者兼店のスタッフである方と二人で店舗業務をしています。

アートショップ・グリーンるうぶの前はフラワーショップ・グリーンるうぶというお花屋さんで、そこでも3年間働いていました。この9年間で、ほんとに多くの方たちとの出会いをもたせていただきました。今回は、そのなかの思い出に残るエピソードを書きたいと思います。



9年前になりますが、仕事の場所が事業団の本部事務所から、フラワーショップ・グリーンるうぶの店の一角になりました。仕事は従来どおり、障害者用のパソコンを使つての啓発の仕事や機関誌の原稿書きをすることになりました。そのとき私は「本部事務所で同じ仕事をするより店の方が、私のような重度の脳性まひを持つ障害者市民であっても、働けることを、自らアピールが出来るチャンスが増える!ぜひやらせて欲しい。」と思いました。店だけではなく、ライフプラザに来られた一般の方々にも、私のような重度身体障害者市民を知ってもらえるとも思いました。

そして期待はされていませんでしたが、私は接客にも挑戦しようと思い、お店で花を買われたお客さんに、パソコンの音声で「ありがとうございました。」と声をかけることにしました。気持ちを込めて声をかけようと、タイミングを計ってパソコンのビッグスイッチを押すのですが、アテトーゼ(不随運動)が出て、お客さんがお店を出て行かれた後にパソコンの音声が出てしまい上手くいきませんでした。何度も苦笑いをしていました。

そんな頃に、ライフプラザに併設されている介護老人保健施設の利用者さんとご家族の方がたまたま来店され、私のうまく伝えられない「ありがとうございました。」が切っ掛けとなって、だんだんと会話ができる関係になりました。そのうちに、その方のお孫さんと私が同じ年齢で誕生日も近いということもお聞きし、より親近感が沸いて、お互いのいろいろな話をするようになりました。今でも、個人的に年賀状のやり取りをしています。

また、事業団では6年前から、大阪府精神障害者社会生活適応訓練事業の事業所として、精神障害者市民の方々が、日常生活リズム作りや人との接し方に馴れてもらうなど、働く前の準備をする場所として利用していただいています。仕事は、商品を入れる包装用の紙袋作りや、お店の窓や商品棚の拭き掃除などの清掃作業をしてもらっています。初対面の訓練生の方は、ほとんど、私の重度の脳性まひ特有の障害である強い言語障害やアテトーゼ(不随運動)に、驚かされている様子が見られます。そこで、最初に自己紹介も兼ねてさっと私の障害について説明をします。そして、私とスタッフの会話も見ってもらうことで、私と訓練生の皆さんとの垣根が低くなって、訓練が終わるころには、ある程度の会話ができるようになっていくこともありました。

「ビューポイント」を書くことは、社会との接点を持たせてもらっている大切な表現のツールで私にとって一番大切な仕事です。しかしそれと同じくらい、このアートショップ・グリーンるうぶで働くことも、大切な仕事です。はじめにも書きましたが、「重度身体障害者市民であっても働けることを、多くの一般の市民の方々にも知ってもらえる」ことになるからです。ここでの9年間は、ほんとに貴重な経験をさせていただきました。これからも、アートショップ・グリーンるうぶの店長の高田として、自らアピールしていきます。ライフプラザへお越しの節は、ぜひアートショップ・グリーンるうぶへお立ち寄り下さい。

担当、高田 浩志

啓発講座の歩み

「障害者問題連続講座」障害者問題啓発事業(主催:箕面市、運営:箕面市障害者事業団)

※講師の肩書きは開催当時のまま記載しています

□平成22年度(2010年度)

『箕面市が提案した「社会的雇用による自立支援」～国制度化を実現するための道筋を、関連領域との連携から探る』

■12.10 松井 亮輔氏(法政大学名誉教授/障がい者制度改革推進会議構成員)

『何故、日本で保護雇用が制度化されてこなかったのか?～EU諸国における所得保障とリンクした取組みから学ぶ』

■2.4 藤井 克徳氏(障がい者制度改革推進会議議長代理/日本障害者協議会常務理事/きょうされん常務理事)

『福祉的就労に労働法規の適用を!～障害者権利条約、ILO(国際労働機関)への提訴等をめぐって』

■3.4 東 俊裕氏(内閣府障がい者制度改革推進会議担当室室長)

『障がい者制度の抜本的な変革を!～障がい者総合福祉法(仮称)、差別禁止法、障害者基本法改正への展望』

□平成23年度(2011年度)『社会的雇用の国モデル事業化へ向け、様々な視点から働くことを検証する』

■11.18 駒村 康平氏(慶応義塾大学経済学部教授/厚生労働省顧問)

/障がい者制度改革推進会議「就労」合同作業チーム副座長)

『経済学の視点から～「障害者雇用と所得保障政策」』

■3.2 竹下 義樹氏(弁護士/障がい者制度改革推進会議「就労」合同作業チーム委員)

『法律の視点から～「障害者雇用と法律、障害者が労働者として働くために」』

■3.9 佐藤 久夫氏(日本社会事業大学社会福祉学部教授/障がい者制度改革推進会議総合福祉部会部会長)

『社会福祉の視点から～「国際障害者年(1981年)以降の、障害者と労働を取り巻く動き」』

□平成24年度(2012年度)『障害のある人の「働く」を支える～次の一步を踏み出すために～』

■12.7 広野 ゆい氏(NPO法人発達障害をもつ大人の会代表/大阪府若者サポートステーションピアワークサポーター)

『大人の発達障害当事者から見た現状と生活支援・就労支援～より良い社会生活をするために～』

■2.1 香田 真希子氏(目白大学保健医療学部准教授/NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボACT-IPSセンター)

『精神障害のある人のリカバリーとIPS(個別就労支援)～働くことの意味～』

■3.15 新居 良氏(箕面市障害者事業所(社会的雇用)豊能障害者労働センター職員)

杉林 佳治氏(就労継続支援A型事業所 桜ほのぼの苑 代表取締役)

中岡 努氏(就労継続支援B型事業所 箕面市東部自立センターZEROの家 職員)

武内 将仁氏(就労移行支援事業所 箕面市障害者雇用支援センター 職員)

『障害のある人が働くこととは ～箕面市内での様々な取組みから～』

□平成25年度(2013年度)『～地域にこだわり、地域を問い直す～』

■12.13 松端 克文氏(桃山学院大学社会学部社会福祉学科教授/箕面市障害者計画策定アドバイザー)

『地域福祉論から語る障害者支援～生活・就労・人権の切り口から見る』

■2.21 片野阪 和幸氏(特定非営利活動法人箕面市障害者の生活と労働推進協議会事務局長)

小泉 祥一氏(豊能障害者労働センター代表)

高田 浩志氏(一般財団法人箕面市障害者事業団職員)

『重度障害者の地域生活とは～それぞれの自立観、共生観をもとに』

■3.20 松友 了氏(一般社団法人社会支援ネット・早稲田すぱいく/社会福祉士/関西福祉大学客員教授)

『何故、いま、司法福祉か～排除の論理から共生の実践への架け橋として』

□平成26年度(2014年度)『～就労支援制度の見直し、現場からの発信～』

■12.19 松井 亮輔氏(法政大学名誉教授、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会副会長)

『日本の障害者雇用・就労政策の現状と課題～自治体の制度、欧米の動きを参照しつつ』

■2.20 下司 良一氏(一般財団法人箕面市障害者事業団 就労支援課長)

井上 正治氏(すいた障がい者就業・生活支援センター長)

畑野 亮平氏(とよなか障害者就業・生活支援センター主任就労支援ワーカー)

内藤 恵子氏(豊能北障害者就業・生活支援センター主任就労支援ワーカー)

『就労支援の現場、何が起きているのか』

～豊能北障害保健福祉圏域(箕面市等)と近隣の就業・生活支援センターでの取組み～』

■3.20 志賀 利一氏(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園事業企画局研究部部長)

『自立支援法、総合支援法を通じて、就労移行支援事業は何をなしえたのか、また何をなすべきなのか』

総目次

機関誌「事業団だより」No.39～No.47
発行 2010.7.30～2015.3.31

2010.7.30 発行 No.39

- 20周年を迎えて…………… 2
- お祝いのご挨拶…………… 3
- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑥…………… 4
箕面市の独自制度「社会的雇用」の国制度化へ向けて
- 職員の声…………… 8
- これまでの取り組み…………… 10
- Viewpoint (インタビューバージョン)…………… 14
- 啓発講座の歩み (H18～H21)…………… 16
- 機関誌総目次 (No. 30～No. 38)…………… 17
- 理事・監事・評議員任期一覧表…………… 20
- 編集後記…………… 28

2010.9.28 発行 臨時号

- 平成22(2010)年度 障害者問題連続講座開催のお知らせ…………… 2, 3
- この秋、いよいよ、就労について国レベルで本格論議スタート…………… 4

2010.12.10 発行 臨時号

- 平成23年(2010年)4月採用に向け職員採用試験をおこないます

2011.6.30 発行 No.40

- 巻頭論文…………… 2
障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑦
いよいよ国にモデル事業を提案～2011年2月15日、箕面市長とともに、
内閣府・厚生労働省等へ
- 事業団日誌…………… 5
- 就労支援課より…………… 6
「障害者事業団らしい就労支援」のルーツとは…?
- 重度障害者市民のViewpoint…………… 8
- 平成21年度 平成22年度 連続講座の報告…………… 10
- 働く顔…………… 11
- お知らせ・編集後記…………… 12

2011.7.14 発行 特別号

- 精神障害者社会生活適応訓練についての考察 2
 ～アートショップ グリーンるうぷでの取り組み～
- 就労支援のチームづくり 8
 ～アセスメントからフォローアップまで～
- 企業就労に向けたモチベーションを高める支援 12
- 緑化部門での事故防止安全対策 16
- 障害者事業所、作業所の収益拡大に向けた側面支援 19
 ～障害者作業所等サポートチームの活動を通じて～
- 編集後記 24

2011.9.28 発行 臨時号

- 「障害者総合福祉法 骨格提言」で、社会的雇用等多様な働き方についての
 試行事業（パイロット・スタディ）が提唱されました

2012.1.31 発行 臨時号

- 年頭のご挨拶

2012.3.28 発行 No.41

- 巻頭論文 2
 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑧
 「骨格提言」を尊重しない厚生労働省案に批判が続出
 2月8日の総合福祉部会報告と、その後の動き
- 事業団日誌 5
- 就労支援課より 6
 ～就職を目指す人への職場実習、施設外就労の取り組みから～
- 重度障害者市民の Viewpoint 8
- 西へ東へ 10
- 働く顔 11
- お知らせ・編集後記 12

2012.7.31 発行 臨時号

- 平成25年（2013年）4月採用に向け職員採用試験をおこないます

2012.11.16 発行 No.42

- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑨ 2
 「社会的雇用の国モデル事業化」の展望は、新たなステージでの議論に
 ～「福祉と労働の谷間」をうめるために
- 事業団日誌 5
- 就労支援課の取り組み 6
 障害者就業・生活支援センター
 障害者雇用支援センター
- 重度障害者市民の Viewpoint 8
- 連続講座の報告 10
- 働く顔 11
- お知らせ・編集後記 12

2013.2.27 発行 特別号

- 一般財団法人箕面市障害者事業団全体研修(2012年11月16日)から…………… 2
障害者を取りまく歴史の変遷【障害者観の変化】と、虐待防止法について
- トレーニングから就労へ…………… 8
～雇用支援センターとジョブコーチの連携の実際～
- 職業的重度障害者雇用における高齢化へのサポート…………… 12
～事業団の雇用現場から発信する 第2弾～
- ライプラまつりにおける「みのおライフプラザ」活性化への取り組み…………… 16
- 編集後記…………… 20

2013.3.28 発行 No.43

- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑩…………… 2
よくあるご質問
「社会的雇用はいつ頃から始まったのですか?」に答えて
- 事業団日誌…………… 5
- 就労支援課の取り組み…………… 6
- 重度障害者市民のViewpoint…………… 8
- 西へ東へ…………… 10
- 働く顔…………… 11
- 編集後記…………… 12

2013.8.2 発行 臨時号

- 理事長就任のご挨拶

2013.11.28 発行 No.44

- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑪…………… 2
よくあるご質問
「社会的雇用はいつ頃から始まったのですか?」に答えて(後編)
- 事業団日誌…………… 5
- 就労支援課の取り組み…………… 6
- 重度障害者市民のViewpoint…………… 8
- 連続講座の報告…………… 10
- 働く顔…………… 11
- 編集後記…………… 12

2014.2.28 発行 特別号

- ビューポイント特集号について…………… 2
- 高田浩志さんの紹介…………… 4
- ビューポイントへの思い…………… 5
- 産経新聞記事…………… 7
- ビューポイント バックナンバー No.9～13…………… 8
- ビューポイント バックナンバー No.23～28…………… 18
- ビューポイント バックナンバー 番外編 No.17…………… 30
- ビューポイント バックナンバー 番外編 No.19…………… 32
- 高田さんの介助職員として…………… 34
- 生きた啓発主体としての高田さんのこと…………… 35
- 編集後記…………… 36

2014.3.31 発行 No.45

- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑫…………… 2
 こんにちは訪問で学んだ、共に働くことの意味 ～緑化推進事業を例にして
- 事業団日誌…………… 5
- 就労支援課の取り組み…………… 6
- 重度障害者市民のViewpoint…………… 8
- 西へ東へ…………… 10
- 働く顔…………… 11
- 編集後記…………… 12

2014.10.13 発行 臨時号

- 平成27年(2015年)4月採用に向け職員採用試験をおこないます

2014.11.28 発行 No.46

- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑬…………… 2
 こんにちは訪問は気づきの宝庫～多様な取り組みをする事業団だからこそ、現場に学ぶ
- 事業団日誌…………… 5
- 就労支援課の取り組み…………… 6
- 重度障害者市民のViewpoint…………… 8
- 連続講座の報告…………… 10
- 働く顔…………… 11
- 編集後記…………… 12

2015.3.27 発行 No.47

- 障害者事業団をもっと知っていただきたいシリーズ⑭…………… 2
 雇用や実習を通じて培った支援事例～合理的配慮のあり方について考える
- 事業団日誌…………… 5
- 就労支援課の取り組み…………… 6
- 重度障害者市民のViewpoint…………… 8
- 連続講座の報告…………… 10
- 西へ東へ…………… 11
- 編集後記…………… 12

2015.3.31 発行 特別号

- (全体研修の記録)この間の法律の動きについて、分かりやすく学ぼう…………… 2
 ～改正障害者基本法、障害者虐待防止法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、
 改正障害者雇用促進法それぞれの関係や、私たちに求められているもの～
- 効果的な就労支援を継続するための体制整備…………… 8
- これからの就労移行支援機関の役割…………… 12
 ～障害者就業・生活支援センターの立場から～
- 事故防止安全対策～リサイクル部門の現場から～…………… 16
- 編集後記…………… 18

一般財団法人箕面市障害者事業団役員任期一覧表

(敬称略、任期の内、現在とは平成27年6月30日現在)

役職	氏名	団体名等	任期(継続含む)
理事長	藤井 保夫	学識経験者	2.6.1～3.10.30
	尾池 良行	箕面商工会議所	4.3.26～25.6.20 (3.10.30～4.3.26 は理事長代行)
	岡 猛博	学識経験者	25.6.20～現在
副理事長	尾池 良行	箕面商工会議所	2.6.1～4.3.26
	高市 俊一郎	学識経験者	4.4.30～15.6.3 (4.4.23 理事就任)
	奥田 一夫	学識経験者	15.6.4～23.4.18 (15.6.3 理事就任)
	岡 猛博	学識経験者	23.4.19～25.6.20
	工藤 寛士	大阪船場繊維卸商団地協同組合	25.6.20～現在 (23.4.19 理事就任)
常務理事	芝 寅勇	箕面市健康福祉部	2.6.1～3.4.18
	兵庫 稔康	箕面市健康福祉部社会福祉室	3.4.30～4.4.23 (3.4.18 理事就任)
	岩崎 淳	箕面市健康福祉部	4.4.30～7.5.22 (4.4.23 理事就任)
	仲野 公	箕面市健康福祉部	7.5.24～8.6.4 (7.5.22 理事就任)
	熊井 稔	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	8.6.5～10.5.27 (8.6.4 理事就任)
	武藤 進	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	10.5.28～13.6.4 (10.5.27 理事就任)
	河井 幸彦	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	13.6.6～14.6.4 (13.6.4 理事就任)
	吉田 直彦	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	14.6.5～15.4.17 (14.6.4 理事就任)
	吉田 照夫	財団法人箕面市障害者事業団	15.4.21～21.6.10 (15.4.17 理事就任)
	栗原 久	財団法人箕面市障害者事業団	21.6.10～現在 (21.4.19 理事就任)

役 職	氏 名	団 体 名 等	任期 (継続含む)
理事	中西 秀夫	箕面市身体障害者福祉会	2.6.1～3.4.18
	森田 トシ子	箕面手をつなぐ親の会	2.6.1～3.4.18
		社会福祉法人あかつき福祉会	4.4.23～6.5.23
	下野 百合子	箕面市肢体不自由児者父母の会	2.6.1～3.4.18
		社会福祉法人あかつき福祉会	6.5.23～14.6.7
	濱 口 剛	豊能障害者労働センター	2.6.1～9.12.15
	大 倉 徹	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	2.6.1～9.4.18
	馬 垣 安芳	箕面市障害者自立の店たんぼぼ共働作業所	2.6.1～9.4.18
	石 原 章之	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	2.6.1～4.4.23
	古 谷 要	社団法人箕面市シルバー人材センター	2.6.1～13.4.18
	阪 口 一子	社会福祉法人あかつき福祉会	2.6.1～4.4.23
	杉 本 彰	箕面市農業協同組合	2.6.1～4.10.5
	白 金 久雄	箕面地区労働組合協議会	2.6.1～8.6.4
	守 田 良隆	箕面市出納室	2.6.1～4.4.23
	紺 谷 リツ子	箕面市身体障害者福祉会	3.4.18～7.3.22
	岸 本 文代	箕面手をつなぐ親の会	3.4.18～6.5.23
			11.4.18～12.6.5
	松 尾 ひろ子	箕面市肢体不自由児者父母の会	3.4.18～15.4.18
	高 木 孝夫	箕面市出納室	4.4.23～6.5.23
	笹 川 清和	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	4.4.23～10.5.27
	黒 田 常雄	箕面市農業協同組合	4.10.5～8.6.4
	西 本 征子	箕面手をつなぐ親の会	6.5.23～11.4.18
	岩 部 俊明	箕面市出納室	6.5.23～10.5.27
	室 徳 一	箕面市身体障害者福祉会	7.3.22～12.8.21
	射 場 征一	箕面市農業協同組合	8.6.4～12.6.5
	瀬 尾 元之	箕面地区労働組合協議会	8.6.4～11.11.26
	稲 垣 千秋	箕面市商店会連合会	8.6.4～20.12.11
	千 賀 英譽	大阪船場繊維卸商団地協同組合	8.6.4～13.12.12
	東 岡 妙美	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	9.4.18～11.11.26
	平 山 智久	箕面市障害者自立の店たんぼぼ共働作業所	9.4.18～19.4.18
	倉 幸 雄	豊能障害者労働センター	9.12.15～23.4.18
奥 村 雅一	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	10.5.27～14.6.4	
能 勢 芳樹	箕面市出納室	10.5.27～13.6.6	

役 職	氏 名	団 体 名 等	任期 (継続含む)
理事	丈野 路子	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	11.11.26～12.6.5
	中村 照子	箕面地区労働組合協議会	11.11.26～13.4.18
	山田 詠子	箕面手をつなぐ親の会	12.6.5～19.4.18
	筒井 紀美子	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	12.6.5～15.4.18
	稲治 義治	箕面市農業協同組合	12.6.5～13.4.18
	江頭 タカ子	箕面市身体障害者福祉会	12.12.11～21.4.18
	加藤 一雄	社団法人箕面市シルバー人材センター	13.4.18～14.6.4
	池田 末満	大阪北部農業協同組合	13.4.18～15.4.18
	小林 廣子	箕面地区労働組合協議会	13.4.18～15.4.18
	鈴木 靖夫	大阪船場繊維卸商団地協同組合	13.12.12.～23.4.18
	片岡 照男	箕面市出納室	13.6.6～15.4.18
	辰巳 雅彦	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	14.6.4～17.4.18
	木村 精一	社団法人箕面市シルバー人材センター	14.6.4～15.4.18
	清水 朝一	社会福祉法人あかつき福祉会	14.6.8～15.4.18
	伊藤 久仁子	箕面市肢体不自由児者父母の会	15.4.18～17.4.18
	山口 進	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	15.4.18～23.4.18
	井口 由太郎	社団法人箕面市シルバー人材センター	15.4.18～16.6.7
	内田 幸子	社会福祉法人あかつき福祉会	15.4.18～17.12.8
	増野 弘幸	箕面地区労働組合協議会	15.4.18～19.4.18
	太田 克己	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	15.4.18～16.6.7
		社会福祉法人あかつき福祉会	18.6.8～21.4.18
	江口 武士	社団法人箕面市シルバー人材センター	16.6.8～18.6.1
	坂田 孝	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	16.6.8～18.6.1
	井上 千都	箕面市肢体不自由児者父母の会	17.4.19～21.4.18
			24.6.18～現在
	西川 勇	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	17.4.19～17.12.8
	平野 クニ子	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	17.12.8～25.12.20
	稲治 昂	社会福祉法人あかつき福祉会	17.12.8～18.6.7
	平野 秀之	社団法人箕面市シルバー人材センター	18.6.1～現在
	吉田 功	箕面市健康福祉部	18.6.1～20.6.8
久多里 和子	箕面手をつなぐ親の会	19.4.19～24.6.18	

役 職	氏 名	団 体 名 等	任期 (継続含む)
理事	藤 村 明 子	箕面市障害者自立の店たんぼぼ共働作業所	19.4.19～21.4.18
	関 目 智 子	連合豊能地区協議会箕面連絡会	19.4.19～21.4.18
	森 和 則	箕面市健康福祉部	20.6.9～21.4.18
	黒 山 祥 孝	箕面市商店会連合会	20.12.11～24.6.18
	上 田 一 裕	箕面市身体障害者福祉会	21.4.19～現在
	檜 原 淳 子	箕面市肢体不自由児者父母の会	21.4.19～24.6.18
	永 田 よう子	箕面市障害者自立の店たんぼぼ共働作業所	21.4.19～現在
	上 嶋 幹 子	連合豊能地区協議会箕面連絡会	21.4.19～23.4.18
	田 邊 秀 次	社会福祉法人あかつき福祉会	21.4.19～23.11.9
	小 野 啓 輔	箕面市健康福祉部	21.4.19～22.6.9
	吉 田 照 夫	学識経験者	21.6.11～23.4.18
	稲 田 滋	箕面市健康福祉部	22.6.10～23.11.9
		社会福祉法人あかつき福祉会	23.11.9～24.6.18
	杉 山 幸 子	豊能障害者労働センター	23.4.19～24.6.18
	三 枝 有 紀	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	23.4.19～24.6.18
	阪 上 清 文	連合豊能地区協議会箕面連絡会	23.4.19～24.6.18
	中 井 正 明	箕面市健康福祉部	23.11.9～25.6.20
	西 尾 英 子	箕面手をつなぐ親の会	24.6.18～26.6.18
	辻 伊 織	豊能障害者労働センター	24.6.18～26.6.18
	春 田 薫	特定非営利活動法人そよかぜ	24.6.18～現在
	植 田 恵美子	社会福祉法人息吹	24.6.18～現在
	亀 谷 雅 彦	社会福祉法人あかつき福祉会	24.6.18～現在
	福 本 鮎 美	連合豊能地区協議会箕面連絡会	24.6.18～26.6.18
	野 口 博 史	箕面市商店会連合会	24.6.18～現在
	爲 永 順 子	箕面商工会議所	25.6.20～現在
	村 田 尚 記	箕面市健康福祉部	25.6.20～現在
	平 井 博 文	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	25.12.20～現在
	坂 口 勝 子	箕面手をつなぐ親の会	26.6.18～現在
	藤 田 祐 子	豊能障害者労働センター	26.6.18～現在
	松 本 知 子	連合豊能地区協議会箕面連絡会	26.6.18～現在

役 職	氏 名	団 体 名 等	任 期 (継 続 含 む)
監 事	井 上 一 夫	箕面市民生委員児童委員協議会	2.6.1～7.5.22
	吉 田 直 彦	箕面市出納室	2.6.1～3.4.18 15.4.18～17.5.27
	草 間 正	箕面市出納室	3.4.18～6.5.23
	酒 井 精 治	箕面市出納室	6.5.23～7.5.22
	中 村 保 男	箕面市民生委員児童委員協議会	7.5.22～10.5.27
	稲 田 博	箕面市出納室	7.5.22～10.5.27
	宮 浦 昕 子	箕面市民生委員児童委員協議会	10.5.27～12.6.5
	熊 井 稔	箕面市出納室	10.5.27～15.4.18
	角 野 孝	箕面市民生委員児童委員協議会	12.6.5～16.6.2
	石 田 彦 嗣	箕面市民生委員児童委員協議会	16.6.2～19.4.18
	能 勢 芳 樹	箕面市出納室	17.5.27～18.6.1
	榎 壯	箕面市出納室	18.6.1～19.6.1
	植 村 正 直	箕面市民生委員児童委員協議会	19.4.19～22.5.26
	足 立 勇	箕面市出納室	19.6.1～20.6.9
	白 枝 一 路	箕面市会計室	20.6.9～22.5.26
	林 田 義 弘	箕面市民生委員児童委員協議会	22.5.27～26.6.18
	清 水 朋 子	箕面市会計室	22.5.27～24.6.18
	谷 口 あ や 子	箕面市会計室	24.6.18～26.6.18
	山 内 照 和	箕面市民生委員児童委員協議会	26.6.18～27.6.18
	南 悦 司	箕面市会計室	26.6.18～現在
本 田 喜 久 子	箕面市民生委員児童委員協議会	27.6.18～現在	

*各役員の方々の団体名等は、就任時の名称を記載しております。

《評議員》

氏名	団体名等	任期(継続含む)
小西 好夫	箕面市身体障害者福祉会	2.6.6～12.6.7
和気 登代子	箕面手をつなぐ親の会	2.6.6～4.6.6
増田 喜久子	箕面市肢体不自由児者父母の会	2.6.6～12.6.7
杉原 勝利	豊能障害者労働センター	2.6.6～4.10.12
岩永 千富	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	2.6.6～3.9.25
浦山 敦子	箕面市障害者自立の店たんぼぼ共働作業所	2.6.6～5.8.26
川畑 保子	箕面市精神障害者家族会みのお会	2.6.6～2.8.27
川部 功	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	2.6.6～10.6.6
寺嶋 秀三郎	社団法人箕面市シルバー人材センター	2.6.6～4.6.6
原 日更	社会福祉法人あかつき福祉会	2.6.6～4.4.30
山田 進	箕面商工会議所	2.6.6～4.6.6
傘谷 捨子	箕面市農業協同組合	2.6.6～12.12.13
河内 正比古	箕面地区労働組合協議会	2.6.6～6.6.6
魚島 丈夫	箕面市人権啓発推進協議会	2.6.6～6.6.6
出水 久太郎	箕面市老人クラブ連合会	2.6.6～6.6.6
舩田 和子	箕面市民生委員児童委員協議会	2.6.6～3.4.30
中野 豊	箕面市企画部	2.6.6～3.4.30
石田 憲和	箕面市市民生活部	2.6.6～3.4.30
小山 定男	箕面市健康福祉部	2.6.6～3.4.30
近藤 俊一	箕面市教育委員会事務局生涯学習推進部	2.6.6～6.6.6
今井 宏	箕面市教育委員会事務局指導室	2.6.6～6.6.6
阪本 昭雄	箕面市健康福祉部福祉課	2.6.6～2.8.31
頼富 亮子	箕面市精神障害者家族会みのお会	3.2.6～8.2.7
河合 禮士郎	箕面市健康福祉部障害福祉課	3.2.6～6.6.6
松田 昌子	箕面市民生委員児童委員協議会	3.4.30～4.6.6
出水 睦夫	箕面市企画部	3.4.30～5.5.25
大谷 俊郎	箕面市市民生活部	3.4.30～4.4.30
	社会福祉法人あかつき福祉会	4.4.30～7.5.24
葛西 嘉昭	箕面市健康福祉部保健福祉室	3.4.30～4.4.30
蒲 隆夫	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	3.9.25～4.6.6
稲田 博	箕面市市民生活部	4.4.30～5.5.25
北脇 善明	箕面市健康福祉部保健福祉室	4.4.30～6.6.6
向井 文子	箕面市民生委員児童委員協議会	4.6.6～7.5.24
		8.6.5～9.12.16
小杉 一夫	箕面商工会議所	4.6.6～16.6.7
笹川 君子	社団法人箕面市シルバー人材センター	4.6.6～8.6.5

氏名	団体名等	任期(継続含む)
川島 妙美	箕面市障害者共働作業所そよかぜの家	4.6.6～6.6.6
今井 綾子	箕面手をつなぐ親の会	4.6.6～5.8.26
	箕面市人権啓発推進協議会	12.12.13～15.6.4
小泉 祥一	豊能障害者労働センター	4.10.12～18.6.7
江本 元大	箕面市企画部	5.5.25～7.5.24
井田 哲也	箕面市市民生活部	5.5.25～6.6.6
中谷内 弘子	箕面手をつなぐ親の会	5.8.26～6.6.6
高洲 由美子	箕面市障害者自立の店たんぼぼ共働作業所	5.8.26～22.6.9
橋口 さよ子	箕面手をつなぐ親の会	6.6.6～8.6.5
		10.6.6～12.6.7
大道 広子	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	6.6.6～10.6.6
柳井 律子	箕面地区労働組合協議会	6.6.6～8.6.5
渡邊 貞夫	箕面市人権啓発推進協議会	6.6.6～12.12.13
安田 国太郎	箕面市老人クラブ連合会	6.6.6～8.3.26
野口 誠	箕面市市民生活部	6.6.6～10.6.6
熊井 稔	箕面市健康福祉部	6.6.6～8.6.5
草間 正	箕面市教育委員会事務局生涯学習推進部	6.6.6～8.6.5
高垣 勝治	箕面市教育委員会事務局指導部	6.6.6～9.6.6
庄司 秋男	箕面市健康福祉部障害福祉課	6.6.6～7.5.24
坂口 征男	社会福祉法人あかつき福祉会	7.5.24～13.6.6
吉川 嘉代子	箕面市民生委員児童委員協議会	7.5.24～8.6.5
上西 利之	箕面市人権文化部	7.5.24～10.6.6
武藤 進	箕面市健康福祉部障害福祉課	7.5.24～8.6.5
竹内 茂	箕面市老人クラブ連合会	8.3.26～10.6.6
岸本 文代	箕面手をつなぐ親の会	8.6.5～10.6.6
中井 紀久子	箕面市精神障害者家族会みのお会	8.6.6～12.6.7
高野 恭子	社団法人箕面市シルバー人材センター	8.6.5～10.6.6
竹内 弘	箕面地区労働組合協議会	8.6.5～10.6.6
上西 彰	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	8.6.5～10.6.6
	箕面市教育委員会事務局生涯学習推進部	8.6.5～10.6.6
栗本 忠夫	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	13.6.6～16.6.7
	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	8.6.5～9.12.16
笹川 公德	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	8.6.5～9.12.16
福原 輝幸	箕面市教育委員会事務局指導部	9.6.6～10.6.6
増田 義雄	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	9.12.16～10.6.6
奥村 隆一	箕面市民生委員児童委員協議会	9.12.16～10.6.6
鈴木 くみ子	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	10.6.6～13.3.23
上良 市雄	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	10.6.6～12.6.7
江口 武士	社団法人箕面市シルバー人材センター	10.6.6～16.6.7
谷川 耕治	箕面地区労働組合協議会	10.6.6～14.6.7

氏名	団体名等	任期(継続含む)
積 ユリ	箕面市老人クラブ連合会	10.6.6～13.6.6
平井 米子	箕面市民生委員児童委員協議会	10.6.6～13.6.6
横野 章太郎	箕面市人権文化部	10.6.6～12.6.7
西尾 末生	箕面市市民生活部	10.6.6～13.6.6
吉田 直彦	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	10.6.6～13.6.6
牧里 政子	箕面市教育委員会事務局生涯学習推進部	10.6.6～13.6.6
岡 修	箕面市教育委員会事務局学校教育部	10.6.6～13.6.6
太田 克己	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	10.6.6～15.4.18
	箕面市人権文化部	16.6.7～18.6.7
西田 隆治	箕面市身体障害者福祉会	12.6.7～16.6.7
久多里 和子	箕面手をつなぐ親の会	12.6.7～14.6.7
伊藤 久仁子	箕面市肢体不自由児者父母の会	12.6.7～15.3.20
		17.5.30～現在
植田 恵美子	箕面市精神障害者家族会みのお会	12.6.7～24.3.31
堀尾 清治	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	12.6.7～14.6.7
奥 政則	箕面市人権文化部	12.6.7～15.4.21
中井 利光	大阪北部農業協同組合	12.12.13～15.4.17
岩崎 敏男	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	13.3.23～23.4.18
清水 朝一	社会福祉法人あかつき福祉会	13.6.6～14.6.7
上農 一雄	箕面市老人クラブ連合会	13.6.6～16.6.7
芝田 佳代子	箕面市民生委員児童委員協議会	13.6.6～16.6.7
岡 孝	箕面市市民生活部	13.6.6～15.4.21
田淵 悦夫	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	13.6.6～14.6.7
森田 雅彦	箕面市教育委員会事務局教育推進部	13.6.6～16.6.7
蒲生 直子	箕面手をつなぐ親の会	14.6.7～16.6.7
山地 艶子	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	14.6.7～16.6.7
内田 幸子	社会福祉法人あかつき福祉会	14.6.7～15.3.20
野津 淳子	箕面地区労働組合協議会	14.6.7～16.6.7
坂田 孝	箕面市健康福祉部総合保健福祉センター	14.6.7～16.6.7
今井 安喜子	箕面市肢体不自由児者父母の会	15.3.20～16.6.7
亀谷 雅彦	社会福祉法人あかつき福祉会	15.3.20～22.6.9
中村 信隆	箕面市人権文化部	15.4.21～16.6.7
	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	16.6.7～17.5.30
埋橋 伸夫	箕面市市民生活部	15.4.21～17.5.30
藤野 美代子	箕面市健康福祉部障害福祉課	15.4.21～17.5.30
濱辺 勲	箕面市人権啓発推進協議会	15.6.4～18.6.7
濱口 忠	箕面市身体障害者福祉会	16.6.7～24.6.18
坂口 勝子	箕面手をつなぐ親の会	16.6.7～18.6.7
井上 千都	箕面市肢体不自由児者父母の会	16.6.7～17.5.30

氏名	団体名等	任期(継続含む)
中道 次郎	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	16.6.7～17.12.9
竹井 勇	社団法人箕面市シルバー人材センター	16.6.7～20.6.10
小枝 正幸	箕面商工会議所	16.6.7～現在
奥田 勝久	連合豊能地区協議会箕面連絡会	16.6.7～現在
久住 金造	箕面市老人クラブ連合会	16.6.7～23.5.29
植村 正直	箕面市民生委員児童委員協議会	16.6.7～18.6.7
垣内 昇	箕面市健康福祉部	16.6.7～17.5.30
赤川 隆洋	箕面市教育委員会事務局教育推進部	16.6.7～17.5.30
小泉 正巳	箕面市地域振興部	17.5.30～20.6.10
大橋 修二	箕面市健康福祉部健康福祉政策課	17.5.30～21.6.11
前田 健	箕面市教育委員会事務局教育推進部	17.5.30～19.6.4
塩山 俊明	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	17.5.30～19.6.4
森 和則	箕面市健康福祉部障害福祉課	17.5.30～20.6.10
日比野 昌弘	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	17.12.9～21.12.15
石黒 恵津子	箕面手をつなぐ親の会	18.6.8～現在
杉山 幸子	豊能障害者労働センター	18.6.8～19.6.4 24.6.18～26.6.18
丸橋 舜太郎	箕面市人権啓発推進協議会	18.6.8～26.6.18
鎌田 和佳子	箕面市民生委員児童委員協議会	18.6.8～20.6.10
白枝 一路	箕面市人権文化部	18.6.8～20.6.10
北川 恭子	豊能障害者労働センター	19.6.4～20.6.10
若狭 周二	箕面市教育委員会事務局教育推進部	19.6.4～22.6.10
黒崎 敏孝	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	19.6.4～20.6.10
三浦 唯雄	豊能障害者労働センター	20.6.10～22.6.9
佐藤 昭紀	社団法人箕面市シルバー人材センター	20.6.10～25.4.27
西本 フユ美	箕面市民生委員児童委員協議会	20.6.10～24.6.18
高橋 正信	箕面市人権文化部人権政策課	20.6.10～21.6.10
齋藤 堅造	箕面市地域創造部商工観光課	20.6.10～24.6.18
黒田 正記	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	20.6.10～22.6.9
稲田 滋	箕面市健康福祉部障害福祉課	20.6.10～22.6.9
中井 正美	箕面市人権文化部人権国際課	21.6.11～22.6.9
安居 廣明	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	21.12.16～現在
西崎 理佐子	豊能障害者労働センター	22.6.10～24.6.18
横山 敬子	箕面市障害者自立の店たんぽぽ共働作業所	22.6.10～現在
古川 伸吾	社会福祉法人あかつき福祉会	22.6.10～現在
小西 敏広	箕面市人権文化部	22.6.10～23.5.29
吉田 功	箕面市教育委員会事務局教育推進部	22.6.10～23.5.29
阿部 一郎	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	22.6.10～26.6.18
浅野 美子	箕面市健康福祉部障害福祉課	22.6.10～24.6.18

氏名	団体名等	任期(継続含む)
山口 進	箕面障害者共働作業所そよかぜの家	23.4.19～現在
牧山 昌嗣	箕面市老人クラブ連合会	23.5.30～現在
一階 世志明	箕面市人権文化部人権国際課	23.5.30～24.6.18
南山 晃生	箕面市教育委員会事務局教育推進部	23.5.30～24.6.18
切通 晃	社会福祉法人息吹	24.4.1～現在
川部 三郎	箕面市身体障害者福祉会	24.6.18～現在
谷田 勝巳	箕面市民生委員児童委員協議会	24.6.18～27.6.18
江口 寛	箕面市人権文化部人権国際課	24.6.18～27.6.18
佐賀野 稔	箕面市地域創造部商工観光課	24.6.18～25.3.25
奥田 勝久	箕面市教育委員会事務局教育推進部	24.6.18～25.6.20
栗生 勝成	箕面市健康福祉部障害福祉課	24.6.18～25.3.25
	箕面市地域創造部商工観光課	25.3.25～現在
長谷川 千波	箕面市健康福祉部障害福祉課	25.3.25～現在
野本 淳子	箕面市教育委員会事務局子ども未来創造局	25.6.20～27.6.18
黒山 伊佐夫	公益社団法人箕面市シルバー人材センター	26.1.10～現在
小谷 麗子	豊能障害者労働センター	26.6.18～現在
前田 功	箕面市人権啓発推進協議会	26.6.18～現在
前田 一成	箕面市教育委員会事務局生涯学習部	26.6.18～現在
山内 照和	箕面市民生委員児童委員協議会	27.6.18～現在
柴田 大	箕面市教育委員会事務局こども未来創造局	27.6.18～現在

*各評議員の方々の団体名等は、就任時の名称を記載しております。

編集後記

「箕面市障害者事業団の 25 年間を振り返って」の最後に記させて頂きましたが、本日、平成 27 年（2015 年）6 月 30 日をもちまして、一身上の都合により、25 年 1 か月勤めた箕面市障害者事業団を退職させて頂くことになりました。

設立以来、箕面市内外の行政・団体ほか数多くの皆さまに、一方ならない御指導・御鞭撻を賜りましたことを、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

なお、私の退職に伴い、6 月 1 日の第 1 回理事会で事務局長の交代が、6 月 18 日の定時評議員会で理事の交代が議決されましたので、7 月 1 日以降は、新たな体制で、次の四半世紀に向けて奮闘してってくれるものと期待しております。

今後とも、障害者事業団に相変わらぬ御支援・御協力を頂きますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます、ありがとうございました。

栗原 久

お知らせ

平成 27 年（2015 年）7 月 1 日の第 2 回理事会で常務理事の選任が行われ、三役体制が変わりましたので、お知らせ致します。今後ともどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

理事長 岡 猛博（学識経験者）
副理事長 工藤 寛士（大阪船場繊維卸商団地協同組合 専務理事）
常務理事 野田 泰弘（事務局長、**新任**）

KSKQ

障害者事業団だより No. 48

発行日／2015年9月2日

編集人／一般財団法人箕面市障害者事業団（理事長 岡 猛博）

〒 562-0015 大阪府箕面市稲 1-11-2 ふれあい就労支援センター 4 階

TEL 072-723-1210 / FAX 072-724-3383

ホームページ <http://www.minoh-loop.net/>

Eメール info@minoh-loop.net